



PREX NOW

No. **136**
July
2004

財団法人 太平洋人材交流センター
Pacific Resource Exchange Center

contents

page 1 ニュース&レポート 1

パキスタン中小企業開発局との連携研修

page 2 同窓会長の声

メキシコ同窓会が発足

page 3 専門家の声

ウズベキスタン 338日

ウズベキスタン・日本人材開発センター
関 忠夫氏

page 4~5 研修員の声

帰国研修員レポート

「研修の成果を生かして」

page 5 ニュース&レポート 2

一般公開セミナーを開催

page 6 PREXだより

事務局ニュース

7・8月実施の主な研修

人の動き

コラム



PREX
Pacific Resource
Exchange Center



ニュース&レポート ①

News & Report

パキスタン中小企業開発局との連携研修

〔パキスタン海外研修「中小企業経営管理」〕

PREXでは5月17日～21日までの5日間、(財)海外技術者研修協会(AOTS)の制度を利用し、パキスタン中小企業開発局(SMEDA)の協力の下、パキスタン海外研修～中小企業経営管理～を実施した。PREXが、パキスタンにて研修を実施するのは今回が初めてである。



グループにて討議する研修員



自動車部品を製造している地元企業の見学

昨年度の国際協力機構(JICA)主催の「中小企業政策セミナー」に参加したパキスタン中小企業開発局のモガールさんから「パキスタンで研修を実施してもらえないか」と連絡があったのはいつのことだろうか。パキスタンの中小企業の経営能力は低く、国際市場で勝ち抜くことが出来ない、ぜひ日本の中小企業の事例を紹介して、彼らを勇気付けて欲しい。その結果、「社長を作り出す人」と言われている(株)ベンチャー・サポート・ネットワーク 代表取締役社長 吉田雅紀氏をメイン講師に、経営計画や戦略の立案、日本の事例紹介(IT戦略、マーケティング戦略、人材戦略)、パキスタンを取り巻く国際環境を研修内容として取り上げることになった。場所は第二の都市であるラホール市である。

30人の研修員を前に講義が始まった。ほとんどが中小企業の経営幹部である。日本から講師が来ると聞いたのでと、イスラマバードなどの遠方からはるばる駆けつけた人もいた。彼らはかなりいろいろと日本の情報を得ていて、生の声を聞きたいと私達を質問せめにする。「日本企業はどのように従業員のやる気を引き出しているのか」「組織体系はどうなっているのか」「理論は分かっているが、日本の企業では実際にどのような戦略を立てているのか」「日本企業はなぜアセアンや中国ばかりでパキスタンに進出しないのか」など企業の実例について熱心に聞いてくる。休憩時間になれば、「現在の小泉内閣の政策は暮らしにどんな影響を与えているのか」といったことから、「日本は長寿国だが、現在の最高年齢は何歳だ」といった具合である。「日出ずる国の現在の様子を聞きたいのさ」と研修員だけではなく、ホテルのガードマンまで機会を見つけては話し掛けてくる。欧米志向の彼らは、アジアの日本人の話をどのように受け止めたのだろう。

勉強熱心な研修員からは毎日どっさりと宿題が出た。日本企業の経営や中小企業の実例についてもっと知りたい、日本企業との取引を考えているがどうしたらいいかというものだ。また、カウンターパートからは更なる研修の実施要望も出された。パキスタン人に日本の姿を伝えていきたいし、私達はパキスタンのいい面を伝えていきたい。そして研修を通じて始まった友情を大事にしていきたい。

最後に、研修員の絶え間ない質問や要望に笑顔で答え、彼らの役に立つのであればいろんな情報を提供して下さり、めったに行けない国だからと研修員にも負けず貪欲に動き回り、1週間3食ともカレー三昧だった吉田社長には心より感謝したい。

最後に、研修員の絶え間ない質問や要望に笑顔で答え、彼らの役に立つのであればいろんな情報を提供して下さり、めったに行けない国だからと研修員にも負けず貪欲に動き回り、1週間3食ともカレー三昧だった吉田社長には心より感謝したい。

国際交流部 主事 三浦 佳子

パキスタン海外研修「中小企業経営管理」

実施日時 5/17～21

開催場所 パキスタン ラホール市

研修参加者 パキスタンの中小企業経営幹部・幹部候補、経済団体の中小企業振興関係業務担当者 計30名

関係機関 海外技術者研修協会(AOTS)、パキスタン中小企業開発局(SMEDA)

内容 講義・討論・演習を通じた、企業経営力・マネジメント力の習得

メキシコ同窓会が発足

[アジア以外で初 PREX 11 番目の同窓会]

2004年5月、PREXでは11番目の同窓会がメキシコに設立された。メキシコからの研修参加者が計33名となり、そのうち「メキシコ中小企業振興政策コース」の参加者が21名となったことを受けて、同コースの参加者の強い要望によるものである。

PREXは今後、積極的な交流・情報交換を図るとともに、何らかのかたちでフォローアップセミナーを行なうために、メキシコ同窓会の会長・会員と協力していく。

2003年度「メキシコ中小企業振興政策コース」参加者であり、この度メキシコ同窓会会長に就任した、メキシコ経済省中小企業庁国際協力プロジェクト部門 ウンベルト・ノゲラ次長より、メキシコ同窓会設立にあたり手記を寄せていただいた。



2003年度「メキシコ地域産業振興政策コース」で徳島ウッドテックを訪問したメキシコの研修参加者ら。



ウンベルト・ノゲラ・ブランコ
メキシコ経済省
中小企業庁
国際協力プロジェクト
部門 次長

メキシコからの研修参加者がメキシコ同窓会に寄せる期待

PREXおよびJICAにより実施された研修には、メキシコからおよそ30名が参加している。研修の目的は、様々な分野での人材育成である。

「メキシコ地域産業振興政策コース」には、2001年度の開始以来、21名の州政府職員が、日本における中小企業振興につ

いて学ぶために参加した。

この訪日研修の結果、いくつかの州では地域産業振興プロジェクトが始まっている。これは、日本の一村一品運動を応用したものである。

さらに、日本の各種中小企業振興機関、ワンストップサービス、起業家・後継者・コンサルタント・経営者などのための中小企業支援機関などの振興策を、メキシコの実状に合わせて適用している。

ここ数年間、メキシコ政府は競争力を育てるという意味で、中小企業振興政策に高い優先順位をつけている。

これらの理由から、メキシコ同窓会では以下のようなことを行ないたいと考えている。

同窓会とPREXとの情報交換を促進

するとともに、他同窓会の活動情報を入手する。

PREXの他同窓会と友好関係を築き、経験を交換する。

他国・地域の同窓会をつなぐ役割を果たす

日本または他国でPREXによって実施される、興味深いイベントに参加する。

将来、セミナーを実施・参加することによって、他国の参加者と経験を交換し、成功事例を知る。

メキシコと日本の両国政府は友好関係を強化するために、経済連携協定の締結に合意するに至っており、今回のメキシコ同窓会の設立はメキシコと日本との新しい関係にふさわしいものである。

PREX同窓会

PREXは1990年4月設立以降、開発途上国の人材育成事業と、その活動を通しての国際的人材交流促進に努めている。2004年6月までに、延べ234コースの研修を実施し、研修受講者累計は、101カ国・地域、7327名となっている。[受入研修2368名、海外研修4959名]

その中で、11カ国・地域<シンガポール、マレーシア、インドネシア、



フィリピン、タイ、ベトナム、中国、重慶、モンゴル、中央アジア(カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン)、メキシコ)において、受入研修参加者からなる同窓会が組織されている。

同窓会の役割とPREX同窓会フォローアップセミナーについて

同窓会とは、PREXの実施する受入研修に参加した方々が、研修終了後も友好交流を維持・発展させることを目的に設立されたものである。具体的には、当該国・地域内の同窓会員が、情報交換を行なったり仕事でネットワークを活用したりといった自主的な活動のほか、PREX職員が出張に行った際や同窓会員が来日する際には、連絡を取り合って情報・意見交換を図るなどといった活動を行なっている。またそれに加え、PREX独自の事業として、同窓会フォローアップセミナーを企画し、同窓会員へのフォローアップを実施している。2002年度はマレーシア、2003年度はモンゴルおよび重慶で同窓会フォローアップセミナーを開催した。

今年度はフィリピン、中央アジアでの同窓会フォローアップセミナーを予定している。



ウズベキスタン 338日

[ウズベキスタン・日本人材開発センター ビジネスコース運営・指導担当長期専門家として]

PREXでは国際協力機構(JICA)の要請に基づき、日本センター関連事業に取り組んでいる。その一環として、PREXより紹介を行い、2003年6月より2年間の予定でウズベキスタン・日本人材開発センターにてビジネスコースの運営全般に携わっておられるエクセルインターナショナル所属の関忠夫氏に、専門家としてのこの1年を振り返っていただいた。



関 忠夫氏

ウズベキスタン・
日本人材開発センター
ビジネスコース運営・
指導

関西空港を出発して、ウズベキスタンへ向かったのは03年の6月20日、着陸1時間少々前から機は高度を下げ始め雪をかぶった山並みが見え始めた。この時期、雪をかぶっているのが4000m級の山々であろう。これは三蔵法師も越えて旅した天山山脈かその支脈だと一人で合点し又興奮した。更に高度を下げる中、急激に暗くなった窓からは街の灯が見え始めた。

明かりの様子から首都タシケントはかなりフラットな街の様だ。

金曜日の到着だったので土日の2日間、まず街を見て歩こうと飛び出した。目の前に大きな公園があり道は放射状に出ている。公園はかなり広く、大きな木々が

立ち並び又色鮮やかな花々が咲いている。周りにはホテル以外に数階建ての石造(実は日干し煉瓦)の建物が多いが、街は静かで行き交う人も比較的ゆっくり歩き、目が会っても余り笑わないが別段敵意を示す訳でもない。服装も日本と変わらない人もいれば、頭からスカーフをまいた人もいる。ピチピチのスラックスに臍だしスタイルの女性もいる。しかし皆な物静かで大人しく見えた。

私の経験では、新しい土地での第一印象はかなりの確率でその後も変わらず、大きく裏切られる事はない。ウズベク人はこの中央アジアの国にあって農耕民族であった為か、イスラム教の教えなのか或いはソ連邦の一員として70数年の社会主義体制下でそうだったのか、いずれにしても比較的従順な人々との印象をもった。

さてビジネスコースを始めてみると、トレーニーも、オフィスのスタッフも到着直後に感じたウズベク人の特徴そのもので、総じてよく勉強はするが大人しく従順(反対の表現をすれば、創意工夫に欠け)で、明治維新の志士の如き高き理想を掲げ、有り余る情熱とパワーで経済改革に取り組むと言う姿勢は感じられなかった。初めにこの人達に火をつけ団扇で扇ぎたてる事とした。

そうはいつても、他の中央アジアの国々が経験したような激しい経済の落ち込み

とインフレこそ経験しなかったものの市場経済化への取り組みをあきらめてしまったのではないかと思える程「ゆっくり」改革に取り組む政府の政策であるから、経済は必ずしも活況を呈してはならず卒業後の就職も簡単ではない。そこで、月1~2の企業訪問を開始し、一線での経済活動の実態を学ぶと同時に、ビジネスコース修了者の優秀性を説いて歩き、一人でも多く企業に雇ってもらう事に取り組んだ。

ある日、従業員数3000人と言われている革製品工場を訪問、しかしその日に働いていた人は6人だけと言う実態を見て驚いた。6人でサッカーボール日産12個、量産機械があるのに何故使わないかと聞いたら、「1日に1000個出来てしまうから」との答えに返す言葉が無かった。

ビジネスコースは、日本からも講師を招きかなり高いレベルの実践的教育がなされているが、目下の所「それからどうなるの」が338日を過ごした私の最大の悩みであり又課題でもある。

338日目、この日が私の60歳(還暦)の誕生日。ウズベキスタンの若者達の学ばせ姿を見、人材育成という大仕事に携わり、改めて自分のこれからの人生も考え、「頑張らない、だけどあきらめない」とする事と決めました。

ウズベキスタン・日本人材開発センター

センター開所
2001年8月22日

設立趣旨
ウズベキスタンの市場経済化の更なる進展を担う人材育成に貢献するため、経営実務の各種研修を実施。あわせて、両国の友好関係促進のため、日本語研修・相互理解事業を行うとともに、日本に関する情報の発信と交流の場の提供する。

所在地
タシケント州タシケント市

ウズベキスタン・日本人材開発センターで実施されているビジネスコース
3つのタイプがあり、MBAタイプの集中講義で期間が5カ月に及ぶものもある。

テーマ
経営戦略、経理・財務管理、組織・人材管理、経営経済など。昼間と夜間にコースがあり、日本からの派遣講師と現地講師が講義を行う。

設備
コンピューター・タートルーム、図書室が完備され、ビジネスコース受講生は自由に使用できるようになっている。



ウズベキスタンの市場の様子



講義の様子。
昼間に実施されるコースは女性受講者がとても多い。



こちらは夜間コースの様子。
仕事帰りの若手男性が多い。講義は長丁場であるが、受講態度はとても熱心。

帰国研修員レポート「研修の成果を生かして」

[京都府・舞鶴市 ナホトカ市「 外食産業・観光産業振興セミナー 」]

京都府・舞鶴市 ナホトカ市「外食産業・観光産業振興セミナー」の参加者からの帰国後の報告。この研修では、日本の観光産業の現状、レストラン、ホテルの経営等についての講義・視察、京都府庁および姉妹都市である舞鶴市の江守市長の表敬訪問に加え、日本旅館への宿泊、懐石料理、温泉の体験などを通して日本への理解と友情を深めた。参加者はロシア沿海州・ナホトカ市のレストラン経営者(兼シェフ)2名、旅行社社長、ホテル経営者、ナホトカ市役所行政官各1名の計5名の皆さん。

シェルピナ・イリーナ・
ワレンチノヴァさん

ナホトカ市長 秘書

私達が帰国してから、すでに1か月が過ぎましたが、日本に滞在していたことが、新鮮に、また昨日のことに思い出されております。まさに、忘れられないセミナーでありました。魅力的な人々との出会い、日出ずる国の文化、伝統、習慣とのふれあい、皆様のご親切及びご配慮、これらがすべて重なりあって、私達が日本人の生活や日本における外食産業及び観光産業システムをよりよく理解することができました。参加者全員が、研修のプログラムをはじめ、研修結果及びその成果を高く評価いたしております。

私の業務は、ナホトカを訪れる外国の代表団や公的な方々を受け入れることであり、旅行会社との連携の下、海外の姉妹都市やパートナー都市との交流事業を実行しております。したがって、私にとりまして、このセミナーへ参加したことは、とても有益であり、興味深いものでありました。

今日、観光は世界経済の中で、主要かつ最もダイナミックに成長しているものの一つであります。多くの国や地方において、GDPの中で重要な地位を占めるとともに、雇用機会の増加や雇用の確保、さらには貿易収支の活性化に重要な役割を担っております。

観光は、ナホトカにとって特別な意味を持っております。ナホトカは、地理上及び



閉講式にて。前列左からマズリョーナさん、ナターリアさん、マリナさん、ニーナさん、イリーナさん。

地政学上において有利な位置を占めており、レクリエーション資源や文化・歴史遺跡、観光のポテンシャルを豊富に有しております。現在、ナホトカ市では、2010年を目処としたナホトカ地域における観光振興プログラムの策定作業を行っております。セミナーの期間中、私達は、京都府をはじめ、舞鶴市の観光振興計画等、日本の観光産業の詳細について説明を受けました。日本の皆様の経験や日本で私が習得した知識は、ナホトカの観光振興計画策定に活用されるものと思います。また、セミナーの期間中、ナホトカと舞鶴間の友好の船の可能性に関する提案を再三申し上げました。私どもは、近い将来、このようなクルーズが実現すると考えており、ナホトカの旅行会社によって、費用の計算をしています。

サバシュニーク、
ナターリヤ・グリゴリエヴァさん

ホテルレント取締役

日本における観光及び外食産業の振興策として私たちが学んだ中で、とても興味深く、充実していると感じたのは、ホテル、レストラン及びすしバーを訪問した時であります。ホテル業を代表する私にとりまして、特に興味深かったのは、ホテルを訪問した時のことであり、バンケットルームの豪華さをはじめ、ホールや廊下のデザインには、とても驚きました。各部屋におい

では、お客が快適に過ごせるよう、微に入り細にわたるまで、考慮されておりました。

今後は、第一段階として、私どもの職員に、デザイン以外のこと、つまり、従業員の礼儀正しさやもてなしの心を伝え、従業員が日本からのお客様に対して、質の高いサービスが提供できるようにしたいと考えております。

コロステリョワ、
ニーナ・ニコラーエヴァさん

レストラン シー・ターミナル取締役

ナホトカ市の外食産業に従事する者として、私は日本の外食産業のシステムを紹介されたことが、大変興味深いものであり、教訓的なものでした。

近年ロシアでは、日本の和食に対する関心が非常に高くなっております。私は、日本の伝統や文化を知り、外食産業システムに対するニーズを理解した後に、ナホトカ市に「すしバー」を合併で作るという提案を持って、上級機関に進むことができます。基礎的な日本料理を有する大衆的な外食企業を作ることは、私の長年の夢でありました。セミナーを通して得られたあらゆる知識や経験を、私は今後の仕事にすべて生かしてまいります。



一般公開セミナーを開催

PREXでは、受入研修参加者と関西の企業人、学生、研究者を含む一般市民との国際交流促進のために「研修参加者をパネリストとした一般公開セミナー」を開催しています。

2004年度は以下の5つの研修で開催を予定しておりますので、皆さんご参加ください。詳細は決定次第、ホームページに掲載予定です。なお、2002年度は、計137名、2003年度は、計165名の一般の方に参加いただきました。

2004年度の開催予定

| | |
|--------------------------------|--|
| メキシコ中小企業・ 地域産業振興政策コース | 実施時期：7月22日（木）13:30～16:00 会 場：piaNPO 会議室 テ ー マ：「日本・メキシコのFTAの現状と 今後の展望」(仮題) |
| 中央アジア市場経済理解のための マーケティングセミナー | 実施時期：10月 会 場：piaNPO 会議室 テ ー マ：「中央アジア・コーカサス地域 産業最新事情」(仮題) |
| インドネシア輸出促進のための マーケティングセミナー | 実施時期：10～11月 会 場：piaNPO 会議室 テ ー マ：「地域の産業情報」(仮題) |
| 中国中小企業振興コース | 実施時期：2～3月 会 場：piaNPO 会議室 テ ー マ：「中国における中小企業の現状」(仮題) |
| マレーシア経営幹部セミナー | 実施時期：2～3月 会 場：piaNPO 会議室 テ ー マ：(未定) |



ジューク・マリーナさん

「クレオト」株式会社のレストラン
「スラビヤンスキー」創業者、社長及びコック長

このたび、ホテル・レストラン及び観光産業の従事者で構成するグループの一員として、大阪で開催された研修に参加する機会を得ました。大型ショッピングセンターや駅及びホテルにあるレストランやカフェにおけるサービスの新しい形態を自分の目で見ることを目的として、私たちのすべての希望を考慮しながら、日本の専門家の方々によって、すばらしいプログラムが組まれました。

ナホトカ市に戻り、私は直ちに、サービス提供のすべての規則を遵守しながら、日本料理をレストランのメニューに新たに適用するよう努力いたしました。入手した食器や備品は、料理や前菜の飾り付けに大変役立っております。お客に対する従業員のもてなし、礼儀正しさ、心づかい及びコックやウェイトレスの仕事上の規則に対する非の打ち所のない遵守の姿勢は、私どもの企業において、切り離すことのできない規則となりました。

私が日本で見た、知ったすべてのことは、日本の代表団を迎えた時に、日本の伝統的かつ現代の料理の特徴を考慮しながら、晩餐会を開催する際に、大いに役立つことになります。



中央アジア市場経済理解のためのマーケティングセミナー(2003年度)



中東欧中小企業振興セミナー(2003年度)



インドネシア輸出促進のためのマーケティングセミナー(2003年度)



マレーシア経営幹部セミナー(2003年度)



中国中小企業振興コース(2003年度)

事務局
ニュース

評議員会・理事会を開催

5月24日、25日に2004年度第1回評議員会・理事会を開催し、2003年度事業の概要報告案と収支決算案、2004年度事業計画修正案、収支予算修正案の承認をいただきました。なお、役員の変動は以下のとおりです。

(退任日2004年5月25日、任期2004年5月26日～2005年3月31日)

評議員 新任：野上紀夫(財)大阪府国際交流財団 理事長

幡掛大輔(株)ユボタ 社長

退任：松廣屋慎二(財)大阪府国際交流財団 前理事長

土橋芳邦(株)ユボタ 相談役

大阪府立住吉高校生来局

5月25日大阪府立住吉高校2年生10名が、国際理解教育プログラムでNPO/NGOの拠点施設piaNPOを訪問、PREXにも来局した。この訪問は、高校生らが多様なNPOの活動に触れ、国際社会の課題を知り、自分の関心に応じたテーマを見つけるためのもので、PREXでは、人材育成の取り組みや、組織概要について紹介した。

7・8月実施の主な研修
「メキシコ中小企業・地域産業振興政策コース」を実施

期間 6/28～7/23

参加者 メキシコ各州政府の地域産業(中小企業)振興担当者7名

内容 地域産業振興政策および中小企業振興政策

「重慶市科学技術管理幹部研修」を実施

期間 7/12～7/14

参加者 科学技術管理・振興にかかわる行政官・公的機関職員30名

内容 科学技術管理

「マレーシア経営幹部セミナー(1)」を実施

期間 7/20～8/6

参加者 マレーシアの行政機関に属する中間管理者20名

内容 人材育成とIT活用

 人の動き
《帰任》


大塚 迪夫 国際交流部 担当部長 住友電気工業株式会社に帰任 出向期間：2002年4月～2004年6月末

2年前の3月に上司から電話があり「太平洋人材交流センターに出向してくれ」と言われ、そこがどんなところか分らず戸惑った。赴任当初はこれまでとは全く違う仕事に戸惑い、金魚の糞の如く先輩にくっつきながら仕事を覚えていったのが昨日の様に思い出される。それから2年が過ぎ国際交流事業がどんなものか多少は分った積もりだが、その奥は広く且つ深く、その一部を知っているに過ぎないのだろう。最近の国際情勢を見ていると、今後の日本の国際協力の方策は流動的になっていくだろうが、PREXが得意としている人材育成は不変だろう。今後のPREXのさらなる発展を祈りつつ「年々歳々花相似たり 歳々々々男同じからず」の言葉を贈ります。

C O L U M N

私の国際協力

国際交流部 担当部長 井上 順

昨年4月の赴任以来1年が経過した。私にとっては財団法人と言う非営利団体での勤務も初めてであれば、研修事業という業務も初めて。また、研修に参加する外国の方達との仕事も初めてというように、何事も初めてづくしのことであった。

当財団の活動は開発途上国の人材育成支援と、その活動を通じての国際的人材交流を促進することにある。それまでの民間企業における自分の目標は、自らの業務を通して企業目標を達成することであった。



ナホトカからの研修参加者と
日本旅館を訪問する筆者 井上(右端)

今回の出向により当財団での業務遂行の上で、それまでの経験が役立つ場面は少なく、新たな視点を取り入れて取り組むことが必要であると感じている。

その際まず必要なことは現在世界や日本で起こっている諸々の問題について、自分に関係があるなしにかかわらず、研修を実施する上で当該問題が日本にとってはどうなるのか、参加の研修員や彼らの母国にとってはどういふ影響があるのかを考える習性を身につけることである。

次に具体的な活動においては研修を実施しながらも、研修委託元と研修員の間に立ち適切な意見具申を行って、研修をより効果的なものにするための役割を果たしていくことも重要だと思う。

異なった文化がぶつかり合い、接触する事によって新しいものが生まれることを「文化の触変」というらしいが、研修事業にいろいろな要素がぶつかり合ってどんどん触変を起こし、新しい文化が生まれるぐらいの意気込みをもって取り組み、国際協力におおいに貢献していきたい。

**PREXの
研修実績**

 2004年
6月末現在

PREXは、1990年4月設立以降、開発途上国の人材育成事業と、その活動を通じての国際的人材交流促進に努めています。

研修累計(1990～)

234コース

受講者累計(1990～)

101カ国・地域 7,327名

【受入(訪日)研修 2,368名 / 海外研修 4,959名】

研修事業延べ講師数(2003年度)

160名

研修事業延べ訪問先(企業/団体)数

(2003年度)

298団体

編集・発行

財団法人 太平洋人材交流センター
専務理事 三田 昌孝

〒552-0021 大阪市港区築港2丁目8-24
pia NPO 5階 502号室

TEL 06-4395-2650
FAX 06-4395-2640

ホームページ: <http://www.prex-hrd.or.jp>
電子メールアドレス: prex@prex-hrd.or.jp